

常勤医足りない被災地、診察のたび違う先生

ツイートする 26 B! 4 おすすめ 2 おすすめ チェック 携帯に送る ?

特集 巨大地震

東日本大震災の被災地で、全国から応援に駆けつけていた医師らのチームが撤退した後の人材確保が課題になっている。

震災後に病院を辞める医師もあり、震災前から医師不足の地域では、常勤医の確保に頭を悩ませている。こうした事態を受け、医療関連団体が協力し、長期的に医師を派遣する仕組み作りも始まったが、打開のめどはたっていない。

「せきが出るの？」

宮城県気仙沼市立本吉病院で26日、診察を受けた佐藤あや子さん(79)は、青森県の病院から応援に来ている医師(28)の問いにうなずいた。付き添った夫の忠男さん(81)は「いい先生でよかったけど、やっぱり毎回同じ先生の方が安心」と話す。

同病院では、診察室のある1階に津波が流れ込み、3月下旬には、院長を含む2人の常勤医が心労などから病院を去った。現在は、全国国民健康保険診療施設協議会(東京)などから医師の派遣を受け、外来診療をしている。

災害派遣の医師は1週間で交代していく。院長も不在のため、診断書などの証明書類の作成ができず、介護施設へ入所する患者などに支障が出ているという。佐々木美知子看護師長(44)は、「患者さんは、今派遣されている先生方が撤退した後も、医療が受けられるのか、不安を持っている」と訴える。

(2011年5月28日03時03分 読売新聞)